

### 第三回 学校運営協議会議録(要点記録)

- 1 開催日時 2022年10月24日(月) 13時30分から15時30分まで
- 2 会議場所 芳川小学校 多目的室
- 3 出席委員 佐藤祐輔、間宮年弘、鈴木幸彦、犬居和賀代、林容子、鈴木麻里
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 古橋一哲 (南陽協働センター)
- 6 学校 澤田正樹(校長)、池端一容(教頭)、榛葉崇文(CS担当職員)、内田由佳(CSディレクター)
- 7 教育委員会 鈴木陽子(教育総務課)
- 8 傍聴者 なし
- 9 協議事項 (1)特色ある学校づくり  
(2)「ほうがわクスノキ応援団」について  
(3)その他
- 10 会議録作成者 CSディレクター 内田由佳
- 11 会議記録

司会の池端から、委員総数 6 人全員の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 議長の選出について

司会から議長の選出について前回の協議に於いて全員異議なく選任及び承認された旨の確認をした。

(2) 特色ある学校づくり

(3) 「ほうがわクスノキ応援団」について

(4) その他

熟議の前に、校長よりプレゼン等に基づいた説明があり、委員からは以下の発言があった。

## 特色ある学校作り

・今後の世の中は、どんどん新しいことが生まれてくるが、子供達には積極的にチャレンジできるようにしてほしい。困ったら詳しい人に尋ねるなど、情報を集めて問題を整理して解決していく力が必要である。

近年、自分自身も先輩に質問し、情報を集めた経験があり重要性を痛感した(間宮)

・最初は、家庭科で実技ができないのに助けを呼ぶことができない子がいるが、誰もヘルプに気づいてあげられなかった。その後、「ボランティアさんにきて！」と先生が促している。分からない子が分からないと言えない子がいるのが印象的(麻里)

・算数などはボランティアの導入が難しいので、ヘルプが難しいかもしれない。先生や友達に聞ける子になってほしい(間宮)

・そもそも課題を見つけようとする力が必要(校長)

・ほうがわクスノキ応援団の進み具合がすばらしい。地域の中に素敵な大人たちがいて、それに憧れる場ができる。

・人とつながる 人の中で自分の良さや人を励ますエピソードから大きな力になる(林)

・校長のすでにあるボランティアとの整合性をとる、というのは必要(林)

・クスノキの進展に驚き。行動力がある。経験上、子供にもだが、大人にも刺激があり相乗効果があると思う。ゆくゆくはおばあちゃんたちが、子供たちに助けてもらうこともあるかもしれない。民生委員に声掛けしてくれればお手伝いできる(犬居)

↓

フェアリータイムズの 16 号の裏面にも記した。現状はスタートしたばかりでだが、順調にしている。地域にもだんだん広がっていけばいいと思う(校長)

・落ち込むような出来事の後朝の挨拶に行ったところ、子どもたちが声掛けしてくれたことで、帰りには気が晴れていた。やりがいがある。楽しい。

・ボランティアについて、もっと地域に広く知らせられる方法はないか。ホームページに載せて募集できないか。

・分からないことを分からないと言える子だけでなく、大人もそうでありたい。

・学校に来ると、学校にいる大人は先生と見なされる。先生と呼ばれるのは寂しい。ボランティアの人たちには自分のことを示す方法はないか(佐藤)

↓

応援団登録者には名札がある(麻里)

・いつも元気な子がしょんぼりしていると声をかけるが、話せない子がいる。家庭に何かあるのか。周りが注意して寄り添える一端になればいいのではないか(幸彦)

・登校中に忘れ物をとりに家へ引き返す子に会った。ゆっくりでもいいから、確実に学校行くよう促したが、去り際に呼び止められ、「ありがとう」といつてくれた。感動した(佐藤)

- ・子どもから挨拶してくれると、声もかけやすい。学校での指導をしてもらえるとありがたい。
  - ・ボランティアの交通安全面が心配。交通事故防止のために門を開放している学校が多い。ボランティアが多くなると、事故の安全面でも精神面でも入りやすくしてもらえないか。子供の安全を考えると閉めたほうがよいのか。開放してもらえるとありがたい(間宮)
  - ・現在はボランティアが来る時間は、駐車場が空いてる時間帯に来てくれているので駐車場自体は大丈夫(麻里)
  - ・協働センターではお年寄りが多くて、今までは貢献できるか不安だったが、家庭科や音楽などならあるかもしれないと思った(古橋)
  - ・芳川小=音楽はどうなったか(間宮)
- ↓
- 今は違う。来年度末で吹奏楽部は最後とする。(校長)

### 「ほうがわクスノキ応援団」設立について

- ・現状について。
    - ☆「教員側からのボランティア依頼書」の紹介
    - ☆数名のグループならさくら連絡網を使うことを徐々に行っていきたい。個別の方々には自身がアレンジしている。
    - ☆職員室の黒板にボランティア状況が明確にわかるように提示している(写真で紹介)  
教員側の感想は別紙。
    - ☆栽培のボランティアに本日5名が参加。当初の目標があつという間に達成される見込み。
    - ☆ボランティア側からの感想・・・師匠と呼ばれてうれしい。子供たちとの距離が縮まる。励ますことを中心として進めている。
    - ☆教員がボランティア導入に対してハードルを感じていた様子が、始まったらよい形になっている(麻里)
  - ・教員が授業を助けてほしいと気軽に依頼を出せるしくみがあるのか(佐藤)
- ↓
- ある。依頼書を書いてもらい、文書棚に入る仕組みになっている。(麻里)
  - ・教員によっては、まだ依頼をためらう者もいる。年数を重ねてもっと信頼関係が構築されれば距離をつめていけるのでは(校長)
  - ・まだスタートしたばかりなので、だんだんできることを増やしていくといいのでは(林、犬居)
  - ・現在は初めての依頼のものばかりだが、年数を重ねていけば、定例の依頼、季節性の依頼も定着し、効率よく回っていくのでは(麻里)

## その他

- ・通学路ではないところを通る子がいるのが気になる(幸彦)
- ・集団登校から外れる子たちは背景に親の意向が影響している(佐藤)
- ・集団登校など、登校のあり方には地域性がある(林)
- ・集団登校は浜松市内全校か?(犬居)
- ・以前、保護者に「集団登校を廃止すると、旗振りや安全確保などの負担が増える」旨を伝えると集団登校廃止論がなくなった(麻里)
- ・芳川小校区は、道路、学区の広さなどの諸事情から、集団登校に向いている。

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

### その他報告事項等

司会から、協議会自己評価表についての説明があり、次回会議については、2023年2月24日(金)13時30分から多目的室で開催する旨の報告があった。次回は、鈴木麻里氏が議長を務める。